



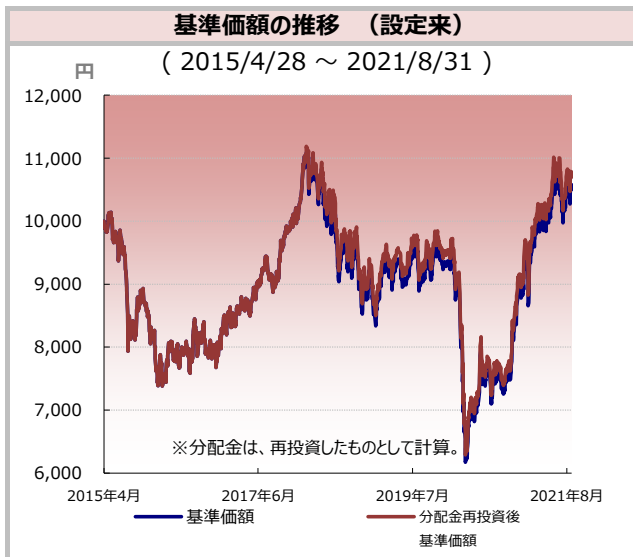
アセアンワールド ファンド

追加型投信／海外／株式

Capital Asset Management

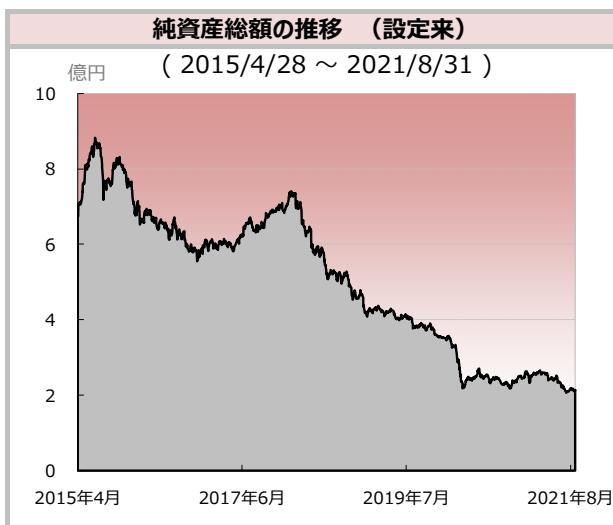
商品概要	
商品分類	追加型投信／海外／株式
投資対象	シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、ベトナム、タイなどのアセアン加盟諸国の株式、及び関連企業の株式等に投資をします。 関連企業とは、アセアン加盟諸国で営業を行なう、もしくはアセアン加盟諸国の経済動向から影響を受ける企業をいいます。
設定日	2015年4月28日
信託期間	無期限
決算日	年4回。原則、毎年1月20日、4月20日、7月20日および10月20日（休業日のときは翌営業日）。

ファンドの状況



ファンドの現状	
基準価額	10,586 円
前月末比	+384 円
純資産総額	2.14 億円
前月末比	+0.04 億円

分配実績（1万口あたり、税引き前）		
第1期から第20期		200 円
第21期	2020年7月20日	0 円
第22期	2020年10月20日	0 円
第23期	2021年1月20日	0 円
第24期	2021年4月20日	0 円
第25期	2021年7月20日	0 円
合計		200 円



運用実績	
期間	騰落率
1 カ月	3.8%
3 カ月	1.0%
6 カ月	10.1%
1 年	40.8%
設定来	7.9%

※分配金は再投資したもとして計算しています。

記載された事項は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼できると考えられる情報に基づき作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。

記載内容等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。

取得申込に際しては必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容をご確認ください。

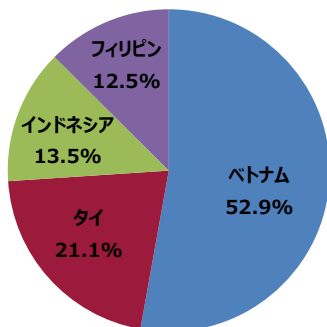


アセアンワールド ファンド

追加型投信／海外／株式

Capital Asset Management

組入比率（国別構成比）



※表示単位未満を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
 ※上記の円グラフの組入比率は現金を除いた組入比率です。

組入上位5業種

業種構成	構成比率
銀行	31.0%
不動産	20.9%
食品・飲料・タバコ	13.0%
テクノロジー・ハードウェアおよび機器	9.7%
素材	9.6%

組入銘柄数

27

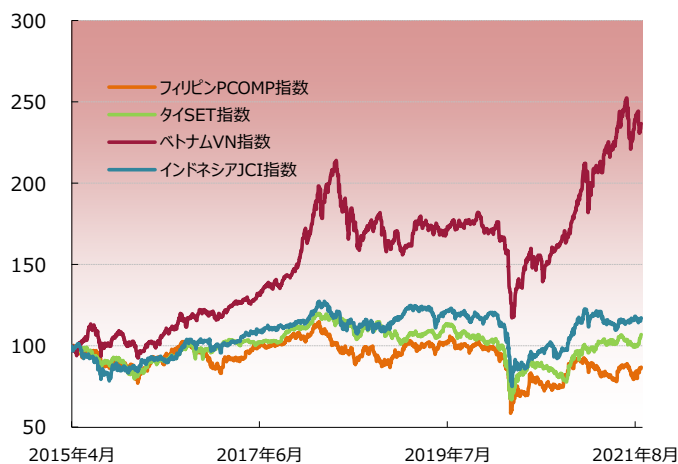
組入上位10銘柄

銘柄名	国	業種	純資産比率
HDバンク	ベトナム	銀行	9.3%
F P T	ベトナム	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	8.8%
ドンハイ・ベンチ製紙	ベトナム	素材	8.8%
ベトナム外商銀行（ベトコムバンク）	ベトナム	銀行	8.0%
マッサングループ	ベトナム	食品・飲料・タバコ	7.0%
アドバンスト・インフォ・サービス	タイ	電気通信サービス	5.8%
SMインベストメンツ	フィリピン	資本財	5.2%
インドフードCBPサクセス・マクムール	インドネシア	食品・飲料・タバコ	5.0%
ダットサイン・グループ	ベトナム	不動産	4.6%
バンコク銀行	タイ	銀行	3.7%

（ご参考） 株式指数・為替の推移

主要投資対象国の株価指数の推移

（2015/4/28 ~ 2021/8/31）

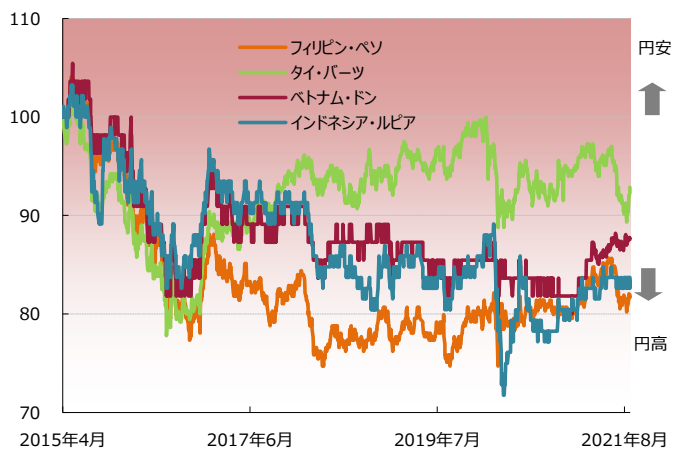


出所：ブルームバーグのデータを基に当社が加工して作成。

※ 2015年4月28日の値を100として指数化しています。

主要投資対象国の通貨 対円レートの推移

（2015/4/28 ~ 2021/8/31）



出所：投資信託協会

※ 2015年4月28日の値を100として指数化しています。

記載された事項は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼できると考えられる情報に基づき作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。

記載内容等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。

取得申込に際しては必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容をご確認ください。



アセアンワールド ファンド

追加型投信／海外／株式

Capital Asset
Management

マンスリーコメント

■ベトナム株式市場

8月のフィリピン株式市場は、ワクチン接種数の増加や堅調な経済と企業収益に支えられ堅調な相場展開となりました。8月末のフィリピン総合指数は前月末比9.33%高となる6,855.44ポイントで引けています。フィリピンの2021年4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比11.8%増、6四半期ぶりのプラス成長になりました。企業業績については、通信大手のグローブ・テレコムとフィリピン長距離電話は外出移動制限による在宅勤務の増加などを受け、ホームブロードバンド加入者が増加する中、中間決算で増益を発表し上昇しました。銀行大手のバンコ・デ・オロ・ユニバンクは上期純利益が前年同期比398%増となったことが好感され上昇しました。不動産大手のSMプライムは上期純利益が同12%増と発表したことを受け上昇、親会社SMも買われました。加えて、8月21日から31日まで、移動・経済制限措置を広域隔離措置（EQC）から修正広域隔離措置に（MECQ）に一段階引き下げたことも好感されました。フィリピン中央銀行は、政策金利である翌日物借入金金利を過去最低の年2.00%で据え置くことを決めました、据え置きは6回連続となります。

◎今後の見通し

弊社はベトナム株式市場について強気の見方をしてしています。今後の展開としては、ワクチンの接種が早まることが予想されています。ワクチン接種の加速によって、全国で約35万人/日（人口の約0.36%）のペースで進んでいます。ベトナム最大の商業都市ホーチン市では、9月5日現在18歳以上で1回でも接種をうけた人口の比率は87%に上っています。フィリピンでは、ワクチン接種者数の増加が株式市場の好材料になっており、8月のフィリピン総合指数は前月比9.33%も上昇しました。タイでは、ワクチン接種率が増える中、感染者数の減少が株式市場の支援材料になっており、8月のタイSET指数は同7.68%上昇しました。ベトナム株式市場もワクチン接種が加速していることから、フィリピンやタイのように今後上昇していくことが期待できます。

■フィリピン株式市場

8月のフィリピン株式市場は、ワクチン接種数の増加や堅調な経済と企業収益に支えられ堅調な相場展開となりました。8月末のフィリピン総合指数は前月末比9.33%高となる6,855.44ポイントで引けています。フィリピンの2021年4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比11.8%増、6四半期ぶりのプラス成長になりました。企業業績については、通信大手のグローブ・テレコムとフィリピン長距離電話は外出移動制限による在宅勤務の増加などを受け、ホームブロードバンド加入者が増加する中、中間決算で増益を発表し上昇しました。銀行大手のバンコ・デ・オロ・ユニバンクは上期純利益が前年同期比398%増となったことが好感され上昇しました。不動産大手のSMプライムは上期純利益が同12%増と発表したことを受け上昇、親会社SMも買われました。加えて、8月21日から31日まで、移動・経済制限措置を広域隔離措置（EQC）から修正広域隔離措置に（MECQ）に一段階引き下げたことも好感されました。フィリピン中央銀行は、政策金利である翌日物借入金金利を過去最低の年2.00%で据え置くことを決めました、据え置きは6回連続となります。

◎今後の見通し

フィリピン株式市場は、新型コロナウイルス感染症の影響もあって年初から12.2%下落(7月末のフィリピン総合指数6,270.23ポイント)したものの、新型コロナウイルスワクチンの調達や「企業復興税優遇法(CREATE)」によって東南アジア諸国で最も高い法人税を最大20%まで引き下げることで企業業績の改善が見込まれるため、年末に向けて堅調に上昇していくと見えています。運用方針としては、GDP全体の約7割を個人消費が占めるほど、フィリピンは消費が活発なことから、引き続き消費関連セクター（消費者サービス・生活必需品・家庭用品）のオーバーウェイトを維持する予定です。

■インドネシア株式市場

8月のインドネシア株式市場は、4-6月期実質GDP成長率が前年同期比7.07%増と5四半期ぶりにプラス成長を回復したことが好感され上昇してスタートしました。その後、インドネシア国内で新型コロナウイルス新規感染者数が2月以来の高水準で推移していることから、行動制限を28日まで延長すると発表したことが嫌気され一時下落した場面がありました。しかし、注目されていた27日のパウエル米連邦準備制度理事会（FRB）議長が講演の中でハト派的発言をしたことを受け、米金融緩和縮小の前倒し観測が後退し、リスク選好的地合いが強まったことを受け月末に向けて上昇して引けました。結局、8月のジャカルタ総合指数は、前月末比1.32%高の6,150.299ポイントで取引を終えました。

◎今後の見通し

弊社はインドネシア株式市場については長期的に強気の見方をしてしています。ジョコ大統領は、インフラ投資の拡大や海外からの企業誘致などの政策実行を加速させていくことで、株式相場の支援材料になると考えています。長期的には、人口の増加や所得水準の向上などを伴いながら、アセアン最大の経済規模を更に拡大していくことが見込まれていることから、株式市場における評価も高まると期待されます。

■タイ株式市場

8月のタイ株式市場は、新規コロナ感染者数がピークアウト傾向を示し、感染抑制策を緩和したことなどを好感し上昇しました。新型コロナウイルス感染症対策センター（CCSA）は27日、新型コロナの感染者が新たに1万8,702人確認されたと発表、6日連続で2万人を下回りました。タイ政府は28日、新型コロナウイルス感染症対策の社会・経済活動の制限を9月1日に緩和することを発表したことについて市場は好感しました。8月のタイSET指数は、前月末比7.68%高の1,638.75ポイントで取引を終えました。

◎今後の見通し

今後の追加経済対策と新型コロナウイルスワクチン接種が注目材料になると見えています。タイ国会は政府による経済再活性化に向けた追加資金調達7,000億タイバーツを承認しました。また、政府は、全国では9月末までに人口の70%に1回目の接種を実施する目標で、それまでには5,000万回分を供給できると見込んでいます。ワクチン接種の進捗が市場の支援材料になると見えています。

記載された事項は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼できると考えられる情報に基づき作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。

記載内容等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。

取得申込に際しては必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容をご確認ください。



アセアンワールド ファンド

追加型投信／海外／株式

Capital Asset Management

ファンドの特色

【運用プロセス】

■ シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、ベトナム、タイなどのアセアン加盟諸国の株式および関連企業の株式等の中から投資魅力度の高い銘柄への投資に注力し、分散されたポートフォリオを構築することを目指します。

■ トップダウン分析とボトムアップ分析を組み合わせたアプローチを用います。

- ・ トップダウン分析ではマクロ経済動向および政治情勢等の見通しについて検討し、投資判断に活かします。
- ・ ボトムアップ分析ではP E R（株価収益率）などの指標分析やその他情報等を参考にして各銘柄への配分を決定します。

実質的な運用にあたっては、現地の経済・市場に精通した、サンタルシア・アセットマネジメント社の投資助言を活用します。

● サンタルシア・アセットマネジメント社

2010年設立、シンガポールを拠点に東南アジア株式の運用をしています。世界最大の政府系ファンド等からインドネシア株運用を任されている運用会社の一つです。

ファンドに係わるリスクについて

当ファンドは、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、ベトナム、タイなどのアセアン加盟諸国の株式および関連企業の株式等価動きのある有価証券に投資します（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被ることがあります。当ファンドに生じた利益および損失は、すべて投資家の皆様に帰属することになります。投資信託は預貯金と異なります。

当ファンドの基準価額は、主に以下のリスク要因により、変動することが想定されます。

株式の価格変動リスク	当ファンドは、主に海外の株式に投資しますので、当ファンドの基準価額は、株式の価格変動の影響を受けます。株式の価格は政治経済情勢、発行企業の業績、市場の需給を反映して変動し、短期的または長期的に大きく下落することがあります。このような場合には、当ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。
為替変動リスク	当ファンドは、主に外貨建ての株式に投資します（ただし、これに限定されるものではありません）。投資している通貨が円に対して強く（円安に）なればファンドの基準価額の上昇要因となり、弱く（円高に）なればファンドの基準価額の下落要因となります。したがって、投資している通貨が対円で下落した場合には、当ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。
カントリーリスク	当ファンドが投資するアセアン諸国の経済状況は、先進国経済に比較して脆弱である可能性があります。そのため、当該国のインフレ、国際収支、外貨準備高等の悪化、また、政治不安や社会不安あるいは他国との外交関係の悪化などが株式市場や為替市場に及ぼす影響は、先進国以上に大きいものになることが予想されます。さらに、政府当局による海外からの投資規制など数々の規制が緊急に導入されたり、あるいは政策や税制の変更等により証券市場が著しい悪影響を被る可能性もあります。
信用リスク	株式を発行する企業が、経営不安・倒産等に陥った場合、投資した資金が回収できなくなることがあります。また、こうした状況に陥ると予想された場合、当該企業の株式等の価値は下落し、当ファンドの基準価額が下がる要因となる可能性があります。
流動性リスク	急激かつ多量の売買により市場が大きな影響を受けた場合、または市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、機動的に株式を売買できないことがあります。このような場合には、効率的な運用が妨げられ、当該株式の価格の下落により、当ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。
解約によるファンドの資金流出に伴う基準価額変動リスク	解約によるファンドの資金流出に伴い、保有有価証券等を大量に売却しなければならないことがあります。その際には、市況動向や市場の流動性等の状況によって、保有有価証券を市場実勢と乖離した価格で売却せざるをえないこともあり、基準価額が大きく下落することがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。



アセアンワールド ファンド

追加型投信／海外／株式

Capital Asset Management

お客様にご負担いただく費用

- ①ご購入時に直接ご負担いただく費用
 - 購入時手数料：お買付申込日の翌営業日の基準価額に対して、3.3%(税抜3.0%)を上限として販売会社が個別に定める料率を乗じて得た金額
 - ②ご解約時に直接ご負担いただく費用
 - 信託財産留保額：解約請求日の翌営業日の基準価額に対して0.3%
 - ③投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用
 - 信託報酬：信託財産の純資産総額に対して年率1.991%(税抜1.81%)
 - その他費用：有価証券等の取引に伴う手数料（売買委託手数料、保管手数料等）、監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理等に要する諸費用等
- ※上記の費用（手数料等）の合計額は保有される金額および期間等により異なりますので、予め表示することができません。
 ※詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

【お申込に際してのご注意】

- 1.当ファンドは、海外の株式等の値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、金融機関の預金とは異なり元本が保証されているものではありません。また、ファンドは預金または保険契約ではなく、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。
 第一種金融商品取引業者以外の金融機関は投資者保護基金に加入していません。
- 2.本資料はキャピタル アセットマネジメント株式会社が作成した情報提供資料であり、金融商品取引法により義務づけられた資料ではありません。
 お申込の際には、投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめあるいは同時にお渡ししますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。
- 3.この資料におけるデータ・分析等は過去の実績に基づくものであり、将来の運用成果および市場環境の変動を保証もしくは予想するものではありません。
- 4.本資料はキャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

委託会社その他関係法人の概要

- 委託会社： 信託財産の運用業務等を行います。
 キャピタル アセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者関東財務局長（金商）第383号
 加入協会： 一般社団法人投資信託協会/ 一般社団法人日本投資顧問業協会
- 受託会社： 信託財産の保管・管理業務等を行います。
 三井住友信託銀行株式会社
- 販売会社

金融商品取引業者名		登録番号	日本証券業協会	日本投資顧問業協会	金融先物取引業協会	第一種金融商品取引業協会
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○		○	○
益茂証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長（金商）第12号	○		○	
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第164号	○		○	
明和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第185号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○

記載された事項は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼できると考えられる情報に基づき作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。
 記載内容等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
 取得申込に際しては必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容をご確認ください。